

令和元年度 第4回昭島市環境審議会  
会議録（要旨）

[開催日時] 令和2年2月20日（木） 18：30～19：56

[開催場所] 昭島市役所3階庁議室

[出席者]

- 1 委員：亀卦川会長、長瀬副会長、臼井委員、内田委員、大嶽委員、堺委員、椎名委員、田中委員、名取委員、二ノ宮リム委員、山本委員
- 2 事務局：池谷環境部長、吉野環境課長、小林係長（計画推進係）、光畠係長（環境保全係）、小沢係長（水と緑の係）、渡邊主任
- 3 コンサルタント会社：倉地、前田

[欠席者]

委員：藤原委員

[傍聴者] 1名

[議事要旨]

- 1 開会
- 2 議題
  - (1) 検討作業の流れの確認について【資料1】
  - (2) 昭島市における分野別の現状・課題について【資料2、3】
- 3 報告
  - 市民意見交換会の結果について【資料4-1、4-2】
- 4 その他
  - (1) 事業者意見交換会の開催について
  - (2) 昭島環境未来会議の開催について【資料5】
  - (3) 次回の審議会日程について
- 5 閉会

[配布資料]

- 資料1 令和元年度の検討作業フロー  
資料2 分野別の環境の現状・課題  
資料3 第3回作業部会グループワーク結果  
資料4-1 昭島市環境基本計画改定に係る市民意見交換会 結果報告  
資料4-2 市民意見交換会記録  
資料5 昭島環境未来会議 概要

[発言要旨]

- 1 開会

## 2 議題

### (1) 検討作業の流れの確認について

(資料1、吉野課長による説明)

### (2) 昭島市における分野別の現状・課題について

分野別の現状・課題の確認について、事務局からの説明が行われた。

(資料2・3、吉野課長による説明)

大獄委員： 環境省が地球循環共生圏を普及させる取組をプラスアップしながらやっている。地域循環共生圏の図を見ると、気候変動適応策は防災など他の部門にも関わっていることが分かる。気候変動対策についても全世界共通で取り組むことだが、環境の切り口で串刺しにしていくことを期待している。この資料では、全体をどう見るかが書かれていない。

吉野課長： 重点すべき課題については、課長職の庁内検討委員会や係長職以下の作業部会で検討する。防災部門、健康部門、建築部門、建設部門なども含まれているので、最終的にはそのようなご指摘のことも書かれることになる。

大獄委員： 地球循環共生圏の取組は、環境省がやっても物事が進まない。各部署がやらないとできてこない。係長が意識してやるかどうかに関わる。そのためにも、全体の図を目で見るかどうかが大事だと思う。意見としては、全体を網羅するよう、環境省の動向も入れるべきだと思う。

池谷部長： そのとおりだと思う。言葉があるかどうかは大事なことだと思う。足りないことを踏まえ、次の資料に盛り込んでいきたい。職員が共通の意識を持っているかと聞かれれば、そうとは言えないだろう。ただし、各分野の専門の職員なので、そのような関連を意識して取り組んでいくことができると思う。

大獄委員： 最近は、ESG投資ということで事業者も動いている。職員がやっていることが、そのようなことにも関わるということになるとよい。作業部会で点検する際にも、意識してほしい。環境部が主導権をとって動いてもらいたい。

名取委員： 地球環境の現状と課題で、東京都によるゼロエミッション戦略を挙げてもらった。東京都も、計画の中で連携強化を柱に挙げている。その後の施策においても、考慮してもらえるとよい。

自然環境について。2頁の課題で、玉川上水で近隣自治体との連携について記載があるが、湧水も近隣自治体との連携が大事である。上流部の自治体と連携するのが重要であり、入れてもらうとよい。また、課題としてムクドリについて触れているが、現状の記述から読み取れなく、唐突感があった。計画書にするときには配慮してもらうとよい。4頁の温室効果ガス排出量の現状について、どこの範囲の排出量かが書いていなかった。昭島市の排出量なのか。

小林係長： ご指摘のデータは、昭島市からの排出量である。

名取委員： そのあたりのことは、明記するとよい。

水を取り巻く現状で、湧水の水質が良好であるということだが、湧水量の現状はどうなっているか。量や水質を確保すると課題を挙げているので、現状として量についても触れてもらうとよい。

吉野課長： 湧水については、水道水も含めて地下水ということは書き込む。ムクドリは駅前などを中心に糞害があり、現状として記述したい。湧水の量について、減少している湧水もあるが、宅地化して涵養域が縮小したことによると思われる。記載を追加したい。温室効果ガス排出量のデータは、昭島市のデータであることを明記する。

大獄委員： 2頁の自然環境、緑について。街路樹の強剪定が行われている。市民の生活と緑の共存ということで、多様な機能を持たせる維持管理、バランスを考えたとあり、どちらでも取れると感じた。例えば、剪定の基準について、ガイドラインのような明確なものはないと思う。限られた予算で、市が造園組合に委託している。熱中症対策を考慮するなど、そのような視点が読み取れなかった。そういうことは課題として認識しているのか、難しいと考えているのか教えてもらいたい。

吉野課長： 街路樹は、維持管理を考えて剪定している。一定程度の高さになると、高所作業車を用意する必要が出てくるため経費も掛かる。崖線の北側は日があたらない、下側は落ち葉があって苦情が来るといったことも考慮し、維持管理を行っている。

大獄委員： 「連続した緑を確保する」という記述があったが、現実の対応は異なっていると思う。今の人はどう考えるかで対処療法的に対応しているが、バックキャストで考える必要もあるだろう。これから考えていかなければいけないと思うが、いかがか。

池谷部長： 現在、剪定に関するガイドラインはない。自然や生活、災害、3つの視点でバランスをもって考えながらどの程度の剪定をすべきか、その樹木が剪定することで萌芽更新を促す効果も含め、考える必要がある。これらを考慮して剪定しているので、ある意味計画的な管理は行えている。ガイドライン作成は難しいことなので、バランスの上に管理を行っているのが現状と言える。

大獄委員： ガイドラインを作る予定はないということだが、例えば「連続した緑を確保して剪定することが必要」という言葉に対し、説明ができる基準があると市民にも理解してもらえるだろう。強剪定の様子を見ていると、熱中症対策は大丈夫なのだろうかと思ってしまう。

亀卦川会長： 資料3に赤字で書かれている。水と緑の中で強剪定の基準づくり、バランスの確保があるが、資料2に反映されていないのか。大獄委員の意見に対応するために、資料3から入れ込んでもらいたい。

吉野課長： 崖線緑地の保全と土砂災害とのバランスと強剪定について入れるということ。

大獄委員： 崖線緑地の保全と土砂災害とのバランスと強剪定となると、木を切ってしまうと感じる。どのような課題認識なのか。

吉野課長： 木を切ってしまうと、土砂が崩れる。ただし、頭が重いと木が倒れやすいので、剪定することとなる。

大獄委員： 崖線は、木と根があるが、頭がない状況で維持をするということか。

池谷部長： 場所ごとの状況によって、考えていく。一律に切ってしまうものではない。

吉野課長： 頭を切っても、翌年には萌芽更新で枝葉が生える。丸坊主のように見えるのは一時だけである。

長瀬副会長： 普通は、そのような考え方でやっているでしょう。

大獄委員： 崖線で悲しい状況になっている樹木がある。市民にわかりやすく説明できるようなガイドラインということでなくとも、わかりやすく示しながら、取り組んでもらいたいという意見である。

長瀬副会長： 抜けている部分があるとすれば、「ガイドライン通りになっていない」と意見を聞く、目安箱のような取組が必要と思った。

池谷部長： 経費のかかることなので、数年間かけて剪定するため目立つかもしれない。

吉野課長： 樹木の北側で洗濯物が乾かないという苦情が寄せられることもある。

臼井委員： 枯れた場合の植樹はどうしているのか。

吉野課長： 市が切っているのは市有地。造園業者が切っているが、枯れたということは聞いていない。薄くなっている場所はあるが、市民の方に植えてもらった。

臼井委員： 老朽化による倒木が心配なので、古い樹木は切らなければならない。水道部では、樹木を伐採して、新しい樹木を植えた。国立市では、住民から反対があり、桜を切れなかつたというが、事故があつてからでは遅い。

長瀬副会長： 剪定に直接関わっている造園業の方からアドバイスや提案はあるのか。

池谷部長： 崖線管理をする際に、プロの意見を聞きながら切ってもらっているのか。

小沢係長： 崖線は8か所あり、それぞれの崖線に熟知している業者と打ち合わせしながら、剪定している。最近台風があるので、強風で樹木が倒れると、そこから浸水して崖崩れになるのも危ない。別に地質調査をしているが、調査結果も含め検討していきたい。

大獄委員： 崖線に大木だけ立っているから土壤が崩壊しやすい。高木や中木、低木がある構成にし、全体で考えることが必要ではないか。昭島市では、環境活動リーダーの方々の活動にあたり、植物生態学の先生が関わってくれている。市民を巻き込む形で考えていくとよい。よい先生方からの指導を受けながら、勉強しながら緑に関わることができるのは良い面である。計画に反映できるとよいと思った。

長瀬副会長： 美観の問題も関わってくる。

大獄委員： 崖線はホタルが生息する場所もあり、豊かな森、体験の森という考え方で管理するのもよいと思う。

田中委員： 拝島橋の向こう側の森は、3年間だけ手を入れて管理したが、現在は手を入れてなくても自然に青々と維持されている。私たちは、そのような勉強をした。横の高校でもそのような管理がされているという。素晴らしい管理办法だと思うがいかがか。

吉野課長： 奥多摩にある昭島市民の森も最初は手を入れ、樹木が茂ると下草が生えなくなるような管理がなされている。

大獄委員： 清掃センターの森は、宮脇先生が手掛けられた森であるなど実践例がある。このような先生方や造園業者の方、市民と一緒に森づくりが進んでいくといい。

亀卦川会長： 資料3の赤字を見ると、かなり良いキーワードが挙げられている。崖線についても生物多様性と安全のバランスを考えていくというキーワードが挙げられている。どう扱っていくのか。

吉野課長： 現在は、環境の現状と課題ということで基本の部分となる。その後、施策を考えていくことになるので、無くなることはない。

亀卦川会長： 資料3の赤字部分などは計画の施策に反映すると考えてよいか。

吉野課長： そのとおりである。

内田委員： 資料2の現状の記述では「～をやっています」と記述してあるが、十分でないという記述が書かれてない。課題は、～必要であると記載してあるが、因果関係がはっきりわかるとよい。例えば、教育や学習は成果を評価することは難しい。どういうことを調べて、どこまで来たから、次のテーマに移りたい、という起承転結の説明が弱いと思った。

吉野課長： 環境活動は、環境課で行っている活動、学校教育で行う活動がある。特に環境課の活動に対しては、課題として明記してある。学校教育における環境の課題については調整していきたい。

内田委員： 問題となっているという現場の意見を書くとよい。

吉野課長： 次回以降に書き込んでまいりたい。

内田委員： ゼロエミッションというが、中身はかなり面倒なこと。どうやって計算していくのか。共通の定義として持っていないとゼロエミッションということは出来ない。廃棄物をリサイクルすれば廃棄物はゼロとカウントするのもあるとよい。

吉野課長： 東京都のゼロエミッションについて考慮しながら、今後取り組んでいくということになる。

内田委員： このような資料が作られたときに、昭島市としてどうすることを目指したいのか、重点ポイントのような大目標を掲げていくといったメリハリのある計画とするとよい。

吉野課長： 今回は、前半の部分である。10年間の計画だが、施策については5年間の施策を立案する予定である。

内田委員： 前回計画は、10年間の計画ということで決めたが、成果が分からなかった。成果が分からなかったので、その他のテーマに取り掛かりますということがあれば、市民も納得するかと思う。

田中委員： リサイクルの方で、私たちは資源回収に取り組んでいるが、紙類の回収価格が低下し業者が倒産し、回収ができなくなっている状況である。自治会でリサイクルに取り組もうとしているが、もし回収業者がいなくなったら、資源回収はどうなるのか。

池谷部長： 資源回収の奨励金の価格設定は、回収業者の買取り価格を基本に考えている。資源回収を奨励しているため、自治会に還元できるように努力する考えである。廃棄物の処理基本計画は来年度以降に改定を予定している。

内田委員： 量が少ないと、回収してくれない。当時、事業者のネットワークの中で話したのは、数をまとめてから業者と交渉してはどうかと考えた。例えば、自治会連合会の中で考えていいけよのではないか。市民のリサイクルをしやすくなるのではないかと思う。

名取委員： 地球環境の課題で、上から2つの①②について。「気候変動が酷くなることを想定する」とあるが、自助・共助が重要であることは間違いないが、違和

感があった。②の課題にあるようなハード対策を行ったうえで、自助・共助が必要となることを述べる、といった流れで述べるとよい。

吉野課長： 庁内の作業部会の課題の中で、自治会の組織率が下がっていることを取り上げ、組織率を上げて自助共助を考えていくということかと思う。

名取委員： それは入れてもらうとよい。

池谷部長： ①については、書きぶりを変えてみる。

亀卦川会長： 細かい点について事務局にも指摘した箇所がある。資料2の地球環境で、温室効果ガスの排出量のグラフが掲載されているが、基準年に対する増減率が書いてある。京都議定書を意識した記述となっているが、現在はパリ協定を意識し記述を考慮していただきたい。部門別排出量のグラフで、民生業務の排出量が増加するということだった。家庭は、1990年基準で、家庭が20%増、業務が31%増ということだった。資料3では、ヒートアイランド現象に配慮する必要があるということだが、気温を下げるとは現実的に難しい。気温を下げるというよりは、体感温度を下げるという観点で、対策を検討した方がよいと申し上げた。樹木の剪定の話題があったが、木陰は非常に有効だと言われている。うまく木陰を作れば体感温度を下げられるとコメントをした。

### 3 報告

#### 市民意見交換会の結果について

(資料4-1・4-2、吉野課長による説明)

大獄委員： 市民から意見を聞く場というのは、これだけか。市民意見交換会の参加者の年代はどうだったか。

渡邊主任： 20～30代の方は2人が参加された。その他は、環境活動リーダーなどの方が中心で年齢層は高めの方となる。

大獄委員： 公募した方の中で若い方もおり、意欲があるのだと思った。とはいって、16人の方で、市民の意見を代表するとも思えない。市民の協力なくして環境基本計画はできない。いかに市民と一緒に作るということが大事だと思う。

吉野課長： 環境未来会議を開催し、事業者からも意見を聞き、さらにまとまった段階でパブリックコメントを行う予定である。

大獄委員： 先ほどまで岩手県の矢巾町いたのだが、フューチャーデザインということで職員がグラフィックアートファシリテータとなり、現在の住民が40年後の仮想の未来人になって、現代の人と意見を交換する設定であった。ファシリテータの力によるものなので、職員が訓練を受けている。27,0000人の人口のうち、職員が100人しかいない小さな規模の町だが、そこに25名が参加したらしい。さらに、参加者がいろいろな場に出ているという。いかに市民の声を聴いて、生かしていくか。いろいろな世代の人たちが昭島に関心を持ってもらうとよい。面白いワークショップの手法であったと感じたので紹介する。

大獄委員： 市民意見交換会に参加した人は、昭島市の環境基本計画や取組などの基本情報についてよく知っていたのか。それとも、全然知らない方々だったのか。また、若い人たちはどう思っていたのか。若い人は公募で来たのか。

吉野課長：若い人の参加者は市職員であった。

大獄委員：公募はしたけど、市民からの応募はなかったということか。二ノ宮リム先生は社会教育のあきしま会議をやって色々な方が集まっているというが、そのような場に出向いて意見を聞いたらどうかと思うが、いかがか。

池谷部長：市民の方のために私どもでできることは最大限やっているつもりである。人が集まるところで、やらせてもらえるかは現実的には難しいかもしれない。短時間だけになるかもしれないが、そのような試みは相談してみたい。

大獄委員：中高生や大学生は、50年後も生きている。未来の人のためにどう環境を残していくのかが大事だと思う。協働、連携を言うのは簡単だが、是非、取り組んでもらいたい。

長瀬副会長：バトンタッチと教育が大事であり、難しいことではない。会社だって事業承継、技術伝承をしている。先輩が後輩に、当たり前に伝わる状況を作っていくとよい。

池谷部長：環境未来会議はそのためにどういうことを思っているのかを聞く会議である。基調講演を亀卦川先生にお願いし、これから先どういうことが起きて、自分の10年後、20年後を考えながら、どうすればよいかを考えてもらう。その考えをフィードバックしていきたい。

大獄委員：私が起点、自分ごととして行動を起こすことが問われている。私たちもどう行動するかが問われていると思う。未来から考えていくことも大事だと思う。

#### 4 その他

##### （1）事業者意見交換会の開催について

（吉野課長による説明）

##### （2）昭島環境未来会議の開催について

（資料5、吉野課長による説明）

##### （3）次回の審議会日程について

吉野課長：3月25日（水）午後6時30分から、庁議室で開催する。

##### （4）その他

二ノ宮リム委員：環境教育について何か議論になったか。

亀卦川会長：資料2については、個別に議論があったわけではないが、現状から課題への記述が弱いといった指摘があった。

二ノ宮リム委員：環境学習や環境教育を推進するにあたり、台風の後に多摩川が使えなくなつておらず、遊び場がないという話を、子どもを育てるお母さん方から聞いています。自然と触れ合える遊び場を充実していかなければ。福生市や立川市にはあるが、昭島市にはないという話があるので、そういった意見を反映していく機会があればと思う。

山本委員： 学校では、多摩川に遊びに行ってよいと伝えているのか。自分の子どもたちの時には、多摩川に遊びに行ってはいけないと通達があった。子どもたち自身による環境学習の実践という意味では大きい。

吉野課長： 学校では、子どもたちだけでは多摩川には行ってはいけない、ただ、親と一緒にならよい、という通達をしている。

山本委員： 多摩川で環境学習をする際には、工夫が必要ということか。

吉野課長： その通りである。地域でカヌーの活動をしているボランティアの方々と一緒にあれば、多摩川に入ることができる。

二ノ宮リム委員： 学校から、親がついていても多摩川に行くなど指導されたことがある。地域のお父さんが指導者サークルを作ったりしているが、公的な支援があるとよい。トイレや着替える場所などの整備、指導者の養成、指導者の派遣ができるとよいと思っている。

田中委員： 夏休みの環境学習として、親子で虫取りを行ったとき、19人程の方が参加した。以外と参加が少ない。

吉野課長： 市では、源流体験、拝島自然公園での虫取り体験などの事業を行っているが、事業によっては集まらない場合がある。

二ノ宮リム委員： どうしても親の情報収集や関心に左右される。親に関心があり情報を探しにいければよいが、そういった親は限られている。子どもたち同士で誘い合って参加できる機会がもっと身近にあるとよいと思っている。現状でも、ウイズユースが自然体験活動を実施する場合、学校で告知され、子どもが自分の意志でお金もほとんどかからず参加できる。ウイズユースに限らず、そのような機会が充実するとよい。

内田委員： 10年前の環境審議会の時も同じことを申し上げたが、多摩川の利用方法について意見した。野球はできそうだが、家族で水と親しむことはできるのかと申し上げた。当時は、福生市の南公園のような公園を、昭島市がなぜ整備ができないのかと質問したところ、国土交通省の管轄だから市としてはできないという。玉川上水も都の管轄なのでできないという。その割に昭島市は水を強く言っている。キャンプは難しいとしても、バーベキューをやって家族で楽しむような整備をしてもらいたいと思っていた。どうも昭島市は説明がうまくないなと思う。市民には情報が入ってこない。市民が憩えるような企画を紹介してもらえる機会があるとよいと思う。

田中委員： 拝島自然公園はキャンプする際に水も出る。最近は子どもたちと一緒にやるようなことが少なくなってきた。環境活動リーダーを育てるのは、以前は都もやっていたが、最近はない。当時の環境活動リーダーが今でも活動しているが、若い人に対してほしい。

吉野課長： 数年前まで環境活動リーダーの募集を行っていたが中々希望者がいない。どう進めていくかは今後検討が必要。拝島自然公園は、バーベキューもできるしテントを張ることができる。大神公園の南側のアキシマクジラが発掘された場所は、バーベキューが行われている。自然公園の利用の仕方については紹介することができると思う。

大嶽委員： 先日、墨田区の事業で、プロジェクトウェットの資格を持っていた関係で、諏訪神社の湧水を案内した。墨田区では若い方も参加し、何人かは家族で参

加し楽しんでいた。このような楽しく参加できる情報を、子育て世代にも紹介できるとよい。市がコーディネートし、地域でやっていることが一目でわかるような情報提供の仕方ができるのではないか。いちいちチラシをまかなくてよいと思った。

山本委員：市民意見交換会に参加したが、大嶽委員の指摘したような、実践できる情報を一か所から発信できる場所やネットワークがほしいと、大抵の方が述べていた。

二ノ宮リム委員：先週末にあきしま会議が開催され、データベースや一覧できるサイトがあるとよいという意見があった。環境分野に限らず、市民向けの講座や活動の情報を集約し発信する仕組みが必要。

吉野課長：市のTwitterもあるが、市民の方が発信できる場所はない。現在、セキュリティ上も難しくなっている状況があり、SNSの活用を考えていく必要があると思う。フェイスブックなどで発信し、載せられる形にすれば登録者ができるかもしれない。環境に関して、そのような仕組みができないかと考えている。

二ノ宮リム委員：アキシマエンシスにも情報共有コーナーがあるといいなと思う。

長瀬副会長：課題というが、10年後の課題か、20年後の課題なのかを明確にする必要がある。夢の実現には日付を付けるべき。いつまでにやるということがないと、切迫感がない。だらだらいくのはよくない。市民の声を吸い上げ、応える方法を考えてもらうとよい。

吉野課長：どの方が書き込んだ情報を載せるのか整理するのは難しい。環境に関しては情報を発信できる場は必要かと思う。

## 5 閉会